家族会 ほっとライン
家族を思う あなたの気持ちが 日本を支えます

超高齢化社会への備え
シニアの鉄人
第78回

よく「どういうきっかけで災害防止研究所に入ったのですか」と聞かれます。答えは簡単で、「自分で立ち上げました」。次に聞かれるのは「どうして自分で立ち上げたのですか」。答えは「何か、自分の力でやってみたいと思ったから」です。

学生の頃から企業マネジメントに興味を持ち、経営者の体験談やマネジメントの本などをよく読んでいました。当たり前のことですが、1980年頃までのほとんどの経営者は軍隊経験があり、軍隊で学んだことを誇らしげに語っていました。

兵隊経験者である彼らの多くが「日本は戦争に負けたが、日本人は負けていない。物量に負けたのだ。日本人が負けたのではないことを俺が証明してやる」と語り、文字通り「企業戦士」として戦っていました。

戦後の日本の繁栄は軍隊経験者によって築かれ、彼らが第一線を退いた後、90年にバブルが崩壊し、日本経済は低迷期に入って抜け出せなくなりました。

その頃、ふと思ったのは、軍隊の真価は退役後の「人」に問われるところが大きいのではないかということでした。パナソニック（旧・松下電器産業）創業者の松下幸之助氏や、ワコールの塚本幸一氏がその例です。

塚本氏は、27歳の時インパールから帰還して焼け野原に立ち、「俺は50年で世界制覇してみせる」と一念発起し、ワコールを立ち上げました。77歳でファッションの本場欧州に進出し、「目標を達成した」と言って、その年に亡くなります。まさに「自分で立ち上げた」人生50年計画を全うされたのです。亡くなる直前に数度お会いした時も、凄まじい気迫を感じました。

人生に第一も第二もない　防災への道を歩んで

一般社団法人 災害防止研究所　代表理事　田 明生（陸自OB）

よく「第二の人生」と言う人がいます。私が自衛隊の部隊長だった時、任期を終えて退職する隊員たちには、「若いのだから、どんな仕事であってもチャレンジしろ」と訓示していましたが、「自衛官は民間人とは違って商売には向いていないのだ」と自慢げに第二の人生を語る退職前の幹部に「どの口が言っているのだ」と冗談交じりに言っていました。

私は、人生に第一も第二もなく、過去はこれからの自分の人生のためにあるのであって、全てが自分の人生だと思っています。

いつの頃からか「自衛隊を退職した後に民間でどれだけ仕事ができるのかといったことに自衛隊への真価が現れるのではないか」と思うようになりました。

私の退職時は、人生100年と言われ始めた頃でした。体育館で開かれた送別会で隊員や参列者たちを前に、「自衛隊で35年間勤めたので、これから先も35年間92歳まで働きます。防大を出たときよりも陸上自衛隊で勉強することができ、とても充実した8年間になりました。最後の1年間は、兼業申請をして一般社団法人災害防止研究所を立ち上げました。「田がやるおそらく、人の営みにまったく通じるものがないという経験は存在しないのでしょう。ありがたいことに、すべてが役立っています。

もちろん、頭の中で構想していることと現実が異なっていることも多いですが、良い悪いではなく、現実の方が正しいのです。それに気がつくと、世界が広がっていきます。気がつくか、気がつかないか。新しいことに着手するたびに、出会いや気づきがあり、面白いことや楽しいことをたくさん経験できます。

「何か、自分の力でやってみたい」という思いだけで防災に取り組んだので、目標が具体的でないこともあり、行き当たりばったりで、ぼんやりとした目標に向かうこの6年間の歩みが早いのか遅いのか分かりません。

「何か」というはっきりしないものをきちんとした形にしたいという「自分探しの旅」でもあるように感じています。

再就職先に自衛隊OBが誰もいないところを希望していたからか、ゆうちょ銀行で勤務することになり、株主総会の承認を得て「社長特命担当顧問」として入社しました。

BCP（事業継続計画）の見直し、組織管理や中期計画策定などのアドバイザー、投資信託のコンサルや消防庁の仕事、講演活動などを行い、一昨年から運営マクロ経済や金融もそれなりにイベント、コンサル、そして防災グッズの販売も、全てがまったく縁のなかった分野でしたが、自衛隊での経験や学んだことで無駄なことは一つもありません。

おそらく、人の営みにまったく通じるものがないという経験は存在しないのでしょう。ありがたいことに、すべてが役立っています。

もちろん、頭の中で構想していることと現実が異なっていることも多いですが、良い悪いではなく、現実の方が正しいのです。それに気がつくと、世界が広がっていきます。気がつくか、気がつかないか。新しいことに着手するたびに、出会いや気づきがあり、面白いことや楽しいことをたくさん経験できます。

「何か、自分の力でやってみたい」という思いだけで防災に取り組んだので、目標が具体的でないこともあり、行き当たりばったりで、ぼんやりとした目標に向かうこの6年間の歩みが早いのか遅いのか分かりません。

「何か」というはっきりしないものをきちんとした形にしたいという「自分探しの旅」でもあるように感じています。

なお、姫路駐屯地では1月22日と2月15日の2回にわたり、異なる内容で訓練および打ち合わせが計画されています。一方、川西駐屯地では家族会および隊友会を交えた訓練の実施は予定されていません。

訓練を通じて、家族会の役割と自衛隊との連携の重要性が改めて認識され、今後の支援活動の充実に向けた貴重な機会となりました。

（兵庫県自衛隊家族会　会長　高木 清志）

講演会の様子

道東（北海道）
令和6年度第2回防衛講演会を開催
安全保障の課題を地域から共に考える場

令和6年11月27日、帯広市のホテル日航ノースランド帯広にて、令和6年度第2回防衛講演会が開催されました。本講演会は公益社団法人自衛隊家族会が主催し、防衛省や地域の協力団体の後援を受けて実施されたものです。

講師には元陸上自衛隊総隊司令官の高田克樹氏を招き、「激動する国際情勢と我が国の安全保障」をテーマに講話が行われました。

講演会には約200人が出席し、自衛隊家族会、隊友会、防衛協会の関係者をはじめ、一般参加者も含まれる多様な聴講者が集まりました。

講演に先立ち、（公社）自衛隊家族会の増田好平会長が主催者を代表してあいさつを行い、講演会の趣旨や防衛意識普及の重要性について述べるとともに、関係団体への感謝を表明しました。

高田氏の講話では、国際情勢の複雑化や日本の防衛課題について具体的な例を挙げながら説明がなされ、参加者からは熱心な反応が見られました。講演後には質疑応答も行われ、参加者同士の意見交換の場としても有意義な時間となりました。

本講演会は、地域住民と防衛関係者のつながりを深める場となり、防衛意識の向上に寄与する貴重な機会となりました。

（本部事務局）

会議形式で手順を確認

兵庫県
「南海レスキュー2024」において家族支援協力訓練に参加

1月15日、陸上自衛隊中部方面隊は、南海トラフ巨大地震の発生を想定した大規模演習「中部方面隊災害対処実動訓練 南海レスキュー2024」を実施しました。この訓練の一環として、伊丹駐屯地、千僧駐屯地、青野原駐屯地において「家族支援活動訓練」が行われ、各駐屯地ごとに担当する家族会地区会および隊友会支部が参加しました。家族会は「家族支援活動協力」の一環として訓練に参加し、自衛隊の家族支援活動への理解を深めました。

青野原駐屯地での訓練には、兵庫県自衛隊家族会の北播磨地区会、東播南西地区会）、明石地区会、三田地区会、兵庫県家族会会長の計9人が参加しました。また、隊友会からも6人が加わり、合同での訓練が実施されました。

訓練は、青野原駐屯地厚生科長の畑井隆普防衛事務官を中心に、会議形式での手順確認を行う形で実施されました。質疑応答も活発に交わされ、今後の「安否確認」担当者の確定および担当者同士の顔合わせの実施が決定しました。

会議終了後には、昨年末に青野原駐屯地司令に着任された小林憲治1等陸佐への表敬訪問を実施しました。

会議形式で手順を確認

兵庫県
「南海レスキュー2024」において家族支援協力訓練に参加

1月15日、陸上自衛隊中部方面隊は、南海トラフ巨大地震の発生を想定した大規模演習「中部方面隊災害対処実動訓練 南海レスキュー2024」を実施しました。この訓練の一環として、伊丹駐屯地、千僧駐屯地、青野原駐屯地において「家族支援活動訓練」が行われ、各駐屯地ごとに担当する家族会地区会および隊友会支部が参加しました。家族会は「家族支援活動協力」の一環として訓練に参加し、自衛隊の家族支援活動への理解を深めました。

青野原駐屯地での訓練には、兵庫県自衛隊家族会の北播磨地区会、東播南西地区会）、明石地区会、三田地区会、兵庫県家族会会長の計9人が参加しました。また、隊友会からも6人が加わり、合同での訓練が実施されました。

訓練は、青野原駐屯地厚生科長の畑井隆普防衛事務官を中心に、会議形式での手順確認を行う形で実施されました。質疑応答も活発に交わされ、今後の「安否確認」担当者の確定および担当者同士の顔合わせの実施が決定しました。

会議終了後には、昨年末に青野原駐屯地司令に着任された小林憲治1等陸佐への表敬訪問を実施しました。

ブルーインパルスの展示機前で写真撮影

熊谷（埼玉県）
熊谷市自衛隊家族会、第7回防衛講演会を開催

令和6年11月30日、熊谷市自衛隊家族会は航空自衛隊熊谷基地（司令・秋本康雄空将補（当時））において、基地司令の秋本将補を講師に迎え、熊谷基地で初めてとなる第7回防衛講演会を開催しました。

講演会には、熊谷市家族会会員や熊谷地区協議会会員、会員の知人・友人、さらに基地近隣自治会長など総勢70人が参加し、会場は熱気に包まれました。

講演では、航空自衛隊の歴史や現況について、司令自身の経歴や経験を交えながら、時代ごとの写真や動画を使った新鮮な内容が展開されました。秋本司令のユーモアを交えた熱弁に、参加者は引き込まれ、特に司令の若かりし頃の姿と現在の航空自衛隊の姿との比較に耳を傾けました。

また、熊谷基地の現況として、第4術科学校の教育内容や基地部隊の活動が紹介されました。第2教育群の新隊員教育については、3カ月間での成長を実例とともに説明。さらに今年から女性自衛官の教育が開始されたことにも触れられ、参加者から時代の変化を感じるとの声が聞かれました。

講演終了後には、基地内を見学し、ブルーインパルスの展示機前で全員写真を撮影。基地内での講演会は、参加者にとって印象深い一日となりました。

（熊谷市家族会　会長　榎田　等）

鳥取から初めての姫路駐屯地研修訪問

岩美町（鳥取県）
募集事務関係者と合同で部隊研修
変わりゆく特科部隊を見学！

鳥取県岩美町自衛隊家族会（前田節夫会長）は、令和6年11月24日、陸上自衛隊姫路駐屯地（司令・米村謙一1等陸佐）の創立73周年記念行事において、自衛隊への知識と関心を深めてもらうため、岩美町役場の自衛官募集事務関係者と合同の13人による研修を実施しました。

出発時には小雨が降っていましたが、県境の峠を越えると嘘のように晴れ渡り、山陰と山陽側の天候の違いを実感しました。

姫路駐屯地は鳥取県から比較的近い場所に位置しているものの、今回が初めての研修訪問となるため、地本の広報官に案内していただきました。

中部方面特科連隊は令和6年3月21日に再編され、連隊本部を姫路駐屯地に置き、豊川、日本原、松山の4個駐屯地に分駐する機動性を備えた特科連隊として新たに編成されました。特科部隊のダイナミックな変貌には驚かされるとともに、大いに感心しました。

観閲式に続く訓練展示では、155ミリ榴弾砲FH70の8門による一斉射撃が行われ、空砲とはいえ、その迫力と音の振動が腹にまで響く体験となりました。

また、音楽演奏や太鼓演奏、鍛え抜かれた隊員によるマッチョコンテストなど、多彩なプログラムを楽しむことができました。帰り際には、姫路駐屯地名物の陸自カレーを土産に購入し、駐屯地を後にしました。

今回の研修では、家族会員、会員の知人・友人、さらに基地近隣自治会長など総勢70人が参加し、会場は熱気に包まれました。

講演では、航空自衛隊の歴史や現況について、司令自身の経歴や経験を交えながら、時代ごとの写真や動画を使った新鮮な内容が展開されました。秋本司令のユーモアを交えた熱弁に、参加者は引き込まれ、特に司令の若かりし頃の姿と現在の航空自衛隊の姿との比較に耳を傾けました。

また、熊谷基地の現況として、第4術科学校の教育内容や基地部隊の活動が紹介されました。第2教育群の新隊員教育については、3カ月間での成長を実例とともに説明。さらに今年から女性自衛官の教育が開始されたことにも触れられ、参加者から時代の変化を感じるとの声が聞かれました。

講演終了後には、基地内を見学し、ブルーインパルスの展示機前で全員写真を撮影。基地内での講演会は、参加者にとって印象深い一日となりました。

（熊谷市家族会　会長　榎田　等）

鳥取から初めての姫路駐屯地研修訪問

岩美町（鳥取県）
募集事務関係者と合同で部隊研修
変わりゆく特科部隊を見学！

鳥取県岩美町自衛隊家族会（前田節夫会長）は、令和6年11月24日、陸上自衛隊姫路駐屯地（司令・米村謙一1等陸佐）の創立73周年記念行事において、自衛隊への知識と関心を深めてもらうため、岩美町役場の自衛官募集事務関係者と合同の13人による研修を実施しました。

出発時には小雨が降っていましたが、県境の峠を越えると嘘のように晴れ渡り、山陰と山陽側の天候の違いを実感しました。

姫路駐屯地は鳥取県から比較的近い場所に位置しているものの、今回が初めての研修訪問となるため、地本の広報官に案内していただきました。

中部方面特科連隊は令和6年3月21日に再編され、連隊本部を姫路駐屯地に置き、豊川、日本原、松山の4個駐屯地に分駐する機動性を備えた特科連隊として新たに編成されました。特科部隊のダイナミックな変貌には驚かされるとともに、大いに感心しました。

観閲式に続く訓練展示では、155ミリ榴弾砲FH70の8門による一斉射撃が行われ、空砲とはいえ、その迫力と音の振動が腹にまで響く体験となりました。

また、音楽演奏や太鼓演奏、鍛え抜かれた隊員によるマッチョコンテストなど、多彩なプログラムを楽しむことができました。帰り際には、姫路駐屯地名物の陸自カレーを土産に購入し、駐屯地を後にしました。

今回の研修では、家族会員と町役場の自衛官募集事務関係者との交流が深まり、今後の募集活動や会員拡大に活かせる手応えを感じました。

最後に、鳥取地本の稲場広報官ならびに姫路駐屯地広報の皆さまには、大変お世話になりましたことを心より感謝申し上げます。

（岩美町自衛隊家族会　会長　前田　節夫）

質疑応答では多くの質問が

佐方市（広島県）
佐方市民センター 防災研修を実施
現場で学ぶ防災意識向上プログラム

広島県佐方市佐方市民センター（指定管理者・佐方アイラブ自治会）は、例年実施している防災事業の一環として、今年度は防災士職員3人が企画した「キキカン」という新しい事業を実施しました。

この事業は、小中高生と保護者を対象に、大規模災害時の行動を学ぶもので、「見て」「聞いて」「感じて」をキーワードに、危機管理の現場を実際に体験しながら学ぶプログラムです。また、広島県公民館等活性化モデル事業にも採択されました。

これまでに、廿日市警察署や廿日市市役所危機管理課などでの研修が行われ、12月15日には陸上自衛隊海田市駐屯地で5回目の研修が実施されました。

研修の目的は、自衛隊の災害時即応体制を現場で学び、災害への意識を高めることです。

当日は、小中高生21人と保護者18人が参加しました。初めて自衛隊の駐屯地を訪れる人が多く、緊張した様子も見られましたが、自衛官の分かりやすい説明や実演を通じて、次第に笑顔が見られるようになりました。

防災講話では災害時の心構えや行動指針について学び、講座ではロープワークや簡易担架の作成、止血法の実演指導を受けました。また、人命救助セットの操作や高機動車の試乗も体験しました。

最後の質疑応答では、災害対応だけでなく、国防や日々の訓練についての質問も飛び交い、参加者の関心の高さがうかがえました。

今回の研修を通じて、参加者は「日頃の意識と訓練」がいかに重要かを実感しました。特に東日本大震災時の「釜石の奇跡」の話が印象深かったようです。子供からは「自衛官になりたい」という感想が、大人からは「人のために尽くす姿がかっこいい」という声が寄せられました。

この「キキカン」事業は、3月16日に最終回を迎えます。その際には、これまで学んだ内容を共有し、災害時に市民としてどのように行動し、「微動する国際情勢と我が国の安全保障」をテーマに講話が行われました。

講演会には約200人が出席し、自衛隊家族会、隊友会、防衛協会の関係者をはじめ、一般参加者も含まれる多様な聴講者が集まりました。

講演に先立ち、（公社）自衛隊家族会の増田好平会長が主催者を代表してあいさつを行い、講演会の趣旨や防衛意識普及の重要性について述べるとともに、関係団体への感謝を表明しました。

高田氏の講話では、国際情勢の複雑化や日本の防衛課題について具体的な例を挙げながら説明がなされ、参加者からは熱心な反応が見られました。講演後には質疑応答も行われ、参加者同士の意見交換の場としても有意義な時間となりました。

本講演会は、地域住民と防衛関係者のつながりを深める場となり、防衛意識の向上に寄与する貴重な機会となりました。

（本部事務局）

名古屋市防災危機管理局麻生氏（右）と情報交換
（（一社）災害防止研究所Web）

高根沢町（栃木県）
入間基地研修、会員の認識を深める
高根沢町自衛隊家族会を支援

栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長・高井1等陸尉）は令和6年12月2日、高根沢町自衛隊家族会（野中守会長）を支援し、航空自衛隊入間基地への研修を実施しました。同家族会の24人が参加し、航空自衛隊の活動への理解を深める有意義な一日となりました。

栃木県内には航空自衛隊の基地はなく、航空自衛隊に触れる機会が限られているため、今回の研修は県民の航空自衛隊への認識を高める目的で企画されました。

研修では、中部航空警戒管制団広報の協力のもと、参加者は、修武台記念館、中部航空方面隊司令部支援飛行隊などを見学しました。特に、修武台記念館では、ゼロ戦のエンジンや特攻兵器「桜花」の機体が展示されており、参加者が静かに歴史に思いを馳せる姿が印象的でした。

また、航空自衛隊の歴代の装備品も展示されており、日本の防空の歴史に触れる機会となりました。

華麗な展示飛行を披露するブルーインパルスで使用されるT-4練習機の説明では、実物を間近に見学できたことで、参加者からは驚きと感動の声が上がりました。パイロットスーツを実際に手に取ったり、操縦の過酷さについて学んだりする中で、航空自衛隊員の仕事の大変さと重要性を実感する場面もありました。

参加者からは「航空自衛隊の活動や装備について学ぶことができ、非常に有意義だった」という声が多く寄せられました。野中会長も「隊員の丁寧な説明のおかげで、航空自衛隊に対する理解が深まり、感謝している」と感想を述べています。

大田原地域事務所は、「地域との連携をさらに深め、自衛隊の魅力を伝える広報活動を通じて、募集広報の強化を図っていく」と意気込みを語っています。

T-4をバックに記念撮影

高根沢町（栃木県）
入間基地研修、会員の認識を深める
高根沢町自衛隊家族会を支援

栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長・高井1等陸尉）は令和6年12月2日、高根沢町自衛隊家族会（野中守会長）を支援し、航空自衛隊入間基地への研修を実施しました。同家族会の24人が参加し、航空自衛隊の活動への理解を深める有意義な一日となりました。

栃木県内には航空自衛隊の基地はなく、航空自衛隊に触れる機会が限られているため、今回の研修は県民の航空自衛隊への認識を高める目的で企画されました。

研修では、中部航空警戒管制団広報の協力のもと、参加者は、修武台記念館、中部航空方面隊司令部支援飛行隊などを見学しました。特に、修武台記念館では、ゼロ戦のエンジンや特攻兵器「桜花」の機体が展示されており、参加者が静かに歴史に思いを馳せる姿が印象的でした。

また、航空自衛隊の歴代の装備品も展示されており、日本の防空の歴史に触れる機会となりました。

華麗な展示飛行を披露するブルーインパルスで使用されるT-4練習機の説明では、実物を間近に見学できたことで、参加者からは驚きと感動の声が上がりました。パイロットスーツを実際に手に取ったり、操縦の過酷さについて学んだりする中で、航空自衛隊員の仕事の大変さと重要性を実感する場面もありました。

参加者からは「航空自衛隊の活動や装備について学ぶことができ、非常に有意義だった」という声が多く寄せられました。野中会長も「隊員の丁寧な説明のおかげで、航空自衛隊に対する理解が深まり、感謝している」と感想を述べています。

大田原地域事務所は、「地域との連携をさらに深め、自衛隊の魅力を伝える広報活動を通じて、募集広報の強化を図っていく」と意気込みを語っています。

福井県
鯖江駐屯地、年末行事開催
隊員と家族がアットホームなひと時

令和6年12月19日、陸上自衛隊鯖江駐屯地（司令・赤木堅太郎2等陸佐）で恒例の年末行事が行われ、隊員家族や自衛隊協力団体のメンバーが参加しました。1年の活動を締めくくるこの行事は、隊員への激励の場ともなりました。

行事の内容は、餅つき、余興、年男年女による抱負発表などで構成されていました。餅つきでは、若い隊員が力強く餅をつき、これに赤木司令や協力団体長も参加しました。余興ではベンチプレス競技が行われ、赤木司令も参加して最高回数を記録しました。

年男年女6人は令和7年の抱負を発表し、ユーモアを交えた内容で隊員から大きな声援を受けました。会食では、おろし餅や小豆餅がふるまわれ、つきたての餅を楽しむ場となりました。

普段は厳しい訓練や災害派遣に励む自衛隊も、この年末行事では赤ちゃんから年配者まで参加し、アットホームな雰囲気の中、隊員たちは笑顔に包まれました。家族会としても、これらの笑顔が永遠に続くよう祈り、支援を惜しまない決意を新たにしています。

（福井県自衛隊家族会　事務局長　大刀 一朗）

よいしょ！　赤木司令の力強い餅つき

兵庫県
掃海艇「なおしま」神戸を旅立つ
多くの人に惜しまれながら呉基地へ回送

1月9日、除籍にあたり呉基地隊へ回送される掃海艇「なおしま」の出港式典に出席しました。兵庫県自衛隊家族会からは、複数の地区会の代表者が参列しました。

掃海艇「なおしま」は多くの地区会員にとってなじみ深い艦艇で、出席者一人一人が「長年お疲れさまでした！」と声を掛け、艦艇に感謝の気持ちを込めて見送りました。

当日は早朝から雪が降り、前日の雨で木製の甲板が濡れるなどの影響が懸念されましたが、しかし、丁寧な掃除が行われ、式典は滞りなく進行しました。

式の途中、艇長は「神戸を去る悲しみの涙が降っていましたが、旅立ちは笑顔で」と語り、出港時には天候も回復し、陽光に照らされる船体が晴れやかな雰囲気を醸し出しました。

約50人以上の見送り人に加え、無数のカモメが名残惜しげに飛び交い、印象的な出港式となりました。

掃海艇「なおしま」は就役24年、うち阪神基地隊所属10年で走行距離は約41万9千km（地球10周半）と伝えられています。呉基地で除籍作業が進み、3月12日に自衛艦旗が返納されます。阪神基地隊では新しい掃海艇が就役し、さらなる発展が期待されています。

（兵庫県自衛隊家族会　理事　吉家 法子）

東神戸地区の横断幕で見送り

秘密厳守
隊員及び家族の皆様の
遺言アドバイザー
（遺言・相続 専門）
遺言書がなく揉める相続。揉めたら全員が敗者です。あなたの遺言書があなたの家族を守ります。「遺言書」づくりをサポート致します。

柴田純一
行政書士
遺言書は、家族の絆の証明書!!
行政書士 柴田法務会計事務所
〒173-0035 東京都板橋区大谷口2-24-13 受付時間／10:00～18:00
TEL 03-6780-1408 FAX 03-6780-1409
E-mail／info@yuigonsyo.biz https://yuigonsyo.biz

解答
数字　頭の体操㉕

答　750円

解説
原価を100円とすると、定価は
100+100×0.2=120円となります。
これから1割引きしますと、実際の売値は
120-120×0.1=108円となり、
利益は　108-100=8円となります。
これが60円に相当するので、原価を□円として比例計算から
100:8=□:60　□=6000÷8=750
よって、原価は750円

（問題は、4面に）